

## II-2 基調講演

のため私たちは混合土地利用を推奨している。

### <都市の高齢化>

高齢化の問題は時に性差別の問題でもある。それは、女性が高齢者を世話をすることが多いからだ。この女性のニーズに対処しないといけない。また時に、高齢化は貧困の問題も伴う。しかし、都市は革新、創造性、多様性をもたらし、高齢者のモビリティ（移動性）やアクセスも向上する。都市デザインはとても重要だ。また、情報技術の発達により、高齢者の社会参加が進んでいる。規模の経済により、公共サービスへのアクセスは農村地域よりも都市の方が容易だ。都市がコンパクトで、統合され、つながりをもつていて、包括的であれば、高齢者は動き回り、地域社会ともっとつながりをもち、医療や地域ケアを受けることができる。都市の安全性も非常に重要だ。また、市民参加型予算制度で、高齢者の関心事を優先事項として組み込むこともできる。中南米の都市には、地域社会に予算案を提出させ、市役所が地域社会に直接予算を配分する参加型予算制度を導入しているところもある。少額の資金援助を住民団体に投入することにより地域社会をまとめることができる。

### <包括的な都市へ>

包括的な都市、都市の格差の解決を目指すために、以下のことをお勧めしたい。過去を評価し、進捗度合を測定すること。この点は地方自治体が弱い面でもある。新しく、より効果的な制度を確立する、あるいは必要に応じて既存の制度を強化すること。市町村、広域自治体、中央政府など異なるレベルの政府間で新しいつながりや協力関係を構築すること。機会の公平な再分配を確保すること。包括性を推進するために持

続的、総合的な構想を示すこと。これらは非常に抽象的ではあるが、格差を縮めるために国連ハビタットが推進している政策だ。

また、世界保健機関（WHO）はアクティブエイジングを提唱している。これは、高齢者ができる限り地域社会に参加し続けることを意味している。

### <今後のパラダイムシフト>

本日のテーマに関して、これからパラダイムシフトのキーワードを確認したい。今後は、「中央集権」的な体制から「地方分権」に移行する。それには、地方政府にさらなる権限とそれに見合った資金や資源が必要だ。

「コントロール」から「サポート」へ。管理するのではなく、方が率先して取り組もうとするのを支援するのだ。

「垂直」から「水平」へ。都市の各機関は他部門と連携がとれておらず、細分化されている。都市として問題に取り組む際には、物事を注意深く水平的な視点をもって見ることが必要だ。隣接する自治体との連携もその一例だ。

「ガバメント」から、「ガバナンス」へ。都市には統治機関がある。しかし、住民と共に効果的な地方自治を実現するには、ガバナンスに移行する必要がある。

「分断」から「連続」へ。地方と都市の分断ではなく、地方と都市の連続体の議論も必要だ。

また、「不均衡」から「包括的」社会への移行、「部門別・断片」から「統合」へ、都市の「スプロール」から「コンパクト」シティへ、というキーワードにも留意してほしい。

そして、「負担」から「資産」へ。高齢者は負担ではなく、地方自治体にとって、資源、そして資産であると考えていただきたいと願っている。

## II-3 参加都市発表

### バンコク都(タイ王国)① 「バンコクの高齢化社会」

Duangporn Pinjisekikul  
保健局健康増進部長

ゆる面での保護の仕組みづくりが鍵となる。

バンコク都は高齢者の日々の生活に役立つように、常にインフラシステムを改善しており、駅にエレベーターを設置しているほか、年末には、高齢者及び障がい者向けタクシーを30台導入する。

バンコク都では駐車場、スロープ、トイレなどを高齢者のためにユニバーサルデザインに改修している。保健所や病院では高齢者優先サービスも提供している。

現在、バンコク都では高齢者対策として病院、保健所、地域、家庭をつなぐ長期ケアモデルを導入しているが、医療支援に関しては、主に家族や地域による在宅医療に重点的に取り組んでいる。バンコク都は保健所向けに長期ケアモデル事業を展開していて、介護者の訓練を重視している。

第3は、子どもや労働年齢人口が将来、質の高い老後を迎えるための備えに関する戦略だ。バンコク都は公式ウェブサイト「オールド・イズ・ヤング・イン・バンコク（Old is Young in BKK）」を通じ、老化のプロセスや健康面や経済面などにおける備えについて教えている。

第4は、高齢者の社会参加促進に関する戦略で、バンコク都は幹部からなる委員会を立ち上げ、結果のフォローアップや評価を行い、高齢者発展計画に沿って都の部局を支援する。

第5は、高齢者に関する知識を整理し、身につけ、発信することに関する戦略である。政策立案に活用したり、高齢者施策の実施状況を監督するために、高齢者に関する知識を深め、情報を得ることを重視している。

現在、バンコクの高齢者人口は全人口の15%にあたる80万人であるが、今後10年で完全に高齢化社会になる。そこでバンコク都は地元大学と共同で2014年から2017年までの「バンコク高齢者の生活の質開発計画」を策定した。この計画には5つの戦略がある。

第1は、高齢者の活動促進と発展に関する戦略で、高齢者の長期的な生活の質の向上に重点を置いている。バンコク都是68か所の保健所と9か所の都立病院において、一次医療から三次医療までを提供しており、高齢者は、すべての都立病院で質の高い医療サービス、健康増進サービス、リハビリテーションを受けることができる。

新しいバンクンティエン老年病専門病院は、医療や健康増進サービス、効果的な専門治療を提供するほか、老年医学と高齢者の介護者のための訓練施設となる予定だ。

一次医療に関しては、保健所に、治療、あらゆる世代の健康増進、疾病予防・管理、リハビリテーションの4つの機能があり、高齢者の健康診断のための移動式医療サービス、保健師による家庭訪問や在宅医療などのサービスも提供している。

すべての保健所と都立病院に高齢者クラブを設置し、アクティブエイジングを推進している。運動、学習、歌、高齢者同士の活動や職業訓練などの活動を実施している。とりわけ、高齢者の自尊心を高め、知恵を活かすことが最も重要な。

第2は高齢者のための社会的なセーフガードに関する戦略で、高齢者向けのあら